

みらい通信

第02号

(株)みらい通信
編集部

『まるっとお任せ企業研修』

関西初！コンシェルジュ型企業研修サービス

昨年10月にリリースしたこのサービスの特徴は、研修によるビジネススキルの向上に加え、従業員のライフプランニングを含めた総合教育です。コロナ禍で顕著に現れた「将来への不安」により、従業員が会社から離れていくことは

企業にとって大きな損失となりま。また、従業員にとっても安易な離職はキャリアプランを構築する上で損失となります。そこで当社は教育を通して、企業の人的リソース安定化および従業員の将来への不安を解消することに貢献していきたくと

考えています。具体的には、まず従業員のスキルレベルに合わせた研修をコーディネートして、生産性の向上を図ります。そして、従業員一人ひとり「ライフプラン」を設計し、従業員みんなが安心して職業人生を歩める環境作りを提供します。



イメージ写真
引用: freegreatpicture's logo A collection great pictures, free.

日銀 「地域経済報告」

(2022年1月12日発表)

景気判断を全国9つの地域すべてで引き上げ



写真: 日本銀行(本店)

サービス業を中心に、新型コロナウイルスの影響が和らいでいるため、全地域の引き上げは2013年10月以来、8年3か月ぶりです。日銀は12日、3か月に1度の支店長会議をオンラインで開き、全国9つの地域の景気の現状をまとめた「地域経済報告」を公表しました。それによりまずと、すべての地域で前回の報告から景気判断を引き上げ「持ち直している」「持ち直しの動きがみられている」などとしています。(引用: 2022年1月12日NHKオンライン) オミクロン株の影響により新型コロナウイルス感染の再拡大が懸念されていますが、今後の動向がどのように展開するか注視する必要があります。

小正月

松の内を忙しく働いたとに働きを

年神様やご先祖様をお迎えする元日を「大正月」と呼んだことに対して、「小正月(こしょうがつ)」は家庭的におこなう行事。松の内を忙しく過ごした主婦をねぎらう意味で「女正月」とも呼ばれています。餅や団子を小さくまるめて柳などの木の枝にさした、餅花をかざります。小正月の行事としておこなわれるのが、年末年始に飾っていた門松やしめ縄飾りを持ち寄って燃やす儀式。年神様をお迎えしたそれら正月飾りを燃やすことで、炎と共に見送る意味があるとも言われています。また、書き初めで書いたものを燃やし、炎が高く上がると腕が上達する、ともいわれています。

『西宮』という名称の源

「西宮」という名称の起りについては諸説ありますが、えびす神を最初におまつりしていたと伝えられる鳴尾や古代の先進地域である津門から見て「西の方の宮」という説や平安京(京都)から見て廣田神社を含む神社群を指して「西宮」と称していましたが、戎神信仰の隆盛と共に戎社(西宮神社)を「西宮」と限定して呼ぶようになった説などが有力です。その後、明治中期の町村制施行により一時は廣田神社が武庫郡大社村、戎社が西宮町に属するようになったが、大正期における西宮の単独市制施行の後、大社村は昭和期に同市へ編入され現在に至ります。

編集後記

早いもので1月も半分が過ぎ、いつまでも正月気分ではいけないな、と思う今日この頃です。「二月往ぬる二月逃げる三月去る」の諺どおり、仕事や